平成23年2月

大内泰文　学位論文審査要旨

主　査　　池　口　正　英
副主査　　村　脇　義　和
同　　小　川　敏　英

主論文

Transfemoral approach using a 3.5-French catheter system for use in transcatheter arterial chemoembolization in patients with hepatocellular carcinoma, technical assessment

（肝細胞癌患者の動脈塞栓術における3.5フレンチカテーテルシステムを用いた大腿動脈アプローチ法：技術評価）

（著者：大内泰文、神納敏夫、橋本政幸、杉浦公彦、足立憲、河合剛、遠藤雅之、小川敏英）

平成23年　Hepatogastroenterology　掲載予定

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は肝細胞癌の肝動脈塞栓術において、マイクロカテーテルを併用した3.5フレンチカテーテルシステムの有用性を検討したものである。その結果、従来の大口径カテーテルシステムを用いた報告と比較して手技成功率は同等であり、大腿動脈アプローチ法での問題点である術後の安静臥床は1時間と短い上に、穿刺部合併症も認めず安全に早期離症が可能との結果が得られた。本研究により、大腿動脈アプローチ法による肝動脈塞栓術において、3.5フレンチカテーテルシステムの導入は技術的に問題無く、術後の安全な早期離症も可能であり臨床的に極めて有用な方法であることが判明した。本論文の内容は、肝動脈塞栓術においてマイクロカテーテルを併用した肝動脈塞栓術に新たな知見を加えたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。